

科技高 いきものの記

Vol.74 2023.4.13

生物教員 佐藤龍平

子を守るカメムシ母さん ミツボシツチカメムシ

最近カエル話題が多くて忘れられているかもしれないので改めて言っておく。**私はカメムシが好きだ**。キュートな顔つきとおもしろ生態にとっても魅力を感じている。カメムシのおもしろ生態の1つに、**子育て**がある。**自分の子を守る行動**を示すものがいくつか知られているのだ。Vol.53で取り上げた**エサキモンキツノカメムシ**（**ハートカメムシ**）が比較的有名だが、もう1種、とても身近で子守をするカメムシが知られていて、ぜひとも見てみたいと思っていた。**それがミツボシツチカメムシだ**。体長が5mmほどしかない上に、全身が黒くて地味なので（三ツ星というチャームな模様はあるが）、おそらくほとんどの人がその存在すら知らない。

ミツボシツチカメムシは春にヒメオドリコソウに集まるということなので、そこら中に生えているヒメオドリコソウの葉を片っ端からめくりまくった。すると、猿江公園の入り口付近で首尾よくこの黒光りする可愛いカメムシを見つけることができた。**花の奥に頭を突っ込んでいる様子**が何とも愛くるしい。お腹がパンパンに膨れたメスを持ち帰り（正直、雌雄は分らなかったけど、お腹が大きいからメスっぽいという当てずっぽうで選んだ）、飼育してみることにした。飼育を始めて4日後、ちょうど23期生の入学式の日、生物室の飼育ケースを覗いて思わず歓声を上げた。**ミツボシツチカメムシが自分の産んだ卵を大事そうに抱えていたのだ！**自分で掘って作った巣の中で、わが子をしっかりと守っている。指を近づけると卵を守るように覆いかぶさった。昆虫で子を保護する行動をとるのはそう多くない。

このカメムシ自体は全く珍しい種類ではなく、どこにでもいるいわゆる**“普通種”**だ。でもじつはこんなに興味深い習性を持っている。つくづく、“当たり前”とか“そんなのどこにでもいる”といって済ませてしまうことが勿体ないことなんだと感じる。一度立ち止まってじっくり観察してみると**“全然普通じゃない”**ことに気付いて楽しくなる。今年度も相変わらず、普通種観察を楽しんでいくつもりだ。



ミツボシツチカメムシの模様 黒地に3つの白点（三ツ星）がある。ツチカメムシの仲間は黒くて地味なものが多い。



卵にぴったりくっついて保護するミツボシツチカメムシ *Adomerus triguttulus* のメス 昆虫の多くは産卵後に卵を放置するが、一部の種類だけこのような保護行動をとる。このまま卵が孵化するまでの10日ほど、飲まず食わずで卵を守り続ける。卵が孵化すると、幼虫のためにエサとなるヒメオドリコソウのタネを巣に運び始めるそうだ。



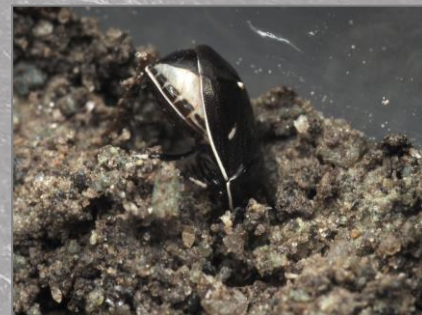
ヒメオドリコソウに群がるミツボシツチカメムシ 頭を突っ込んでタネの汁を吸っている姿がとても可愛い。



ヒメオドリコソウのタネとミツボシツチカメムシ



産卵前の様子 お腹が大きく膨らんでいる。きっとこれから産卵するのだろう。



穴を掘るメス 様子を見ていたら、頭を土に突っ込んで穴を掘り始めた。産卵場所を作っているようだ。